

2020年度 事業計画

(2020年4月1日から2021年3月31日まで)

伝統のかおり 高き学園を目指して

学校法人 修道学園

2020年度 学校法人修道学園事業計画

＜法人本部＞

主要項目	具体策	所管部局	実施月
1 法人運営の充実	(1)法人としての運営基盤の強化 ・各設置学校の運営と法人経営の統合的な調和 ・法人業務の執行体制の充実 ・監事による監査機能の強化と内部監査室の充実 (監事監査規程の施行)	法人事務局	年間
	(2)情報公開の推進等による運営の透明性の向上 ・インターネット等の活用による積極的な情報発信 ・関係法令に基づく諸資料の公表、公開	法人事務局	年間
	(3)三様監査の充実 ・監査法人との密な連携	法人事務局	年間
	(4)設置学校に係る関係所轄庁等への対応 ・学部設置等に伴う履行状況報告、指摘事項等への対応 ・学則改正等関係所轄庁等への諸手続き	法人事務局	年間
	(5)人事、給与等処遇に係る基本的事項の整備 ・中高部、協創中高部の定年制や処遇関係の基本的検討	法人事務局	年間
2 資産の運用	(1)資金運用に係る基本的方針、運用計画等の策定 (2)中長期の運用のためのポートフォリオの形成 (新規資金の投資と償還資金の再投資＝資金運用委員会)	法人財務課	年間
3 施設の整備	(1)中高部 ・本館の建替計画の策定—基本設計等	法人財務課	年間
	(2)協創中高部 ・新校舎(中学校棟)の建設	法人財務課	年間
4 その他	(1)学園創始300年に向けて 諸事業の準備 (2)恒常的な寄付金の募集	法人事務局	年間

2020年度 学校法人修道学園事業計画
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管 部局	実施月
I. 教育と学生支援の充実				
1. 教育の充実と 質保証	1) 教学マネジメントの整備	① 教学マネジメント体制のあり方を検討し、全学における教育の質保証の仕組みを整える。 ② 「教学マネジメント指針」に則って、本学における取り組み内容、計画について整備し、優先順位を決めて取り組む。	各学部 教学C	通年 通年
	2) 次期カリキュラム改正の検討	① 第3期認証評価の改善課題を踏まえ、次期カリキュラム検討を推進する。とくに2020年度においては、カリキュラム改正の方針・スケジュール等を確定し、全学カリキュラム、各学部カリキュラムの検証・検討、整合性を確認しながら整備を行う。	各学部 教学C	通年
	3) アセスメントプランの策定	① 2022年度の大学基準協会への報告を念頭に、アセスメントプランに関する認識を学内で共有し、特に学生の4年間における学修成果の把握・評価(例: 卒業論文・卒業研究・学位論文の活用等)について検討する。	各学部 教学C	通年
	4) 学習支援体制の整備	① 修道スタンダード科目における「修大基礎講座」の在り方を検討する。	学習支援C	通年
	5) 文部科学省ACへの対応	① 健康科学部(設置4年目)への対応・報告をする。 ② 国際コミュニティ学部(設置3年目)への対応・報告をする。	健康科学部 国際コミュニ ティ学部 教学C 学長室他	5月 5月
	6) 新設学部等の円滑な運営	① 健康科学部、国際コミュニティ学部の円滑な運営・科目開設を図る。 ② 学部完成年度以降の教育組織(教員採用等)のあり方について検討し、整備を図る。	健康科学部 国際コミュニ ティ学部 総務部 教学C 学長室他	通年 通年
2. キャリア教育 の充実	1) 全学的キャリア教育・ 学生支援体制の構築	① 全学的キャリア教育と学生支援体制のあり方を検討する。	キャリアC 教学C	通年
	2) 海外留学とインターン シップの充実	① 協定校と協力し、本学学生の海外留学とインターンシップの同時実施の可能性を検討する。また受け入れ学生のインターンシップの可能性も併せて検討する。	国際C	通年
3. グローバル教育 の充実	1) グローバル教育の推進	① 次期カリキュラム改正を視野に、グローバルコースの見直し及び派遣留学事業推進の検討を行う。	国際C 教学C	通年
	2) 海外派遣支援制度の 見直し	① 学生の海外派遣(交換留学、海外セミナー、グローバルコース等)の財政支援制度の精査・検討をする。 ② 交換留学の派遣先の待遇改善(宿泊費免除等)に関する精査・検討並びに交渉を行う。 ③ 海外緊急対応・危機管理対応に関する制度設計(マニュアル化等)を検討する。	国際C	通年 通年 通年
	4) 学生生活支援	① 課外活動支援について、制度の内容及び導入を検討する。 ② UNIVAS(日本版NCAA)に対する検討と対応及び実施事業を充実させる。	学生C	10月 通年
4. 学生生活支援	2) 障がい学生支援への 対応	① 学生受け入れ体制の整備と構築を行う。 ② 設備・支援機器の整備と提案を行う。	学生C	10月 10月
	3) 学習環境の充実	① 学内における学生学習環境の充実を図る。	財務部 教学C	通年
	4) 高等教育修学支援新 制度への対応	① 学生の授業料等減免申請の大学事務手続き・体制を整備する。	学生C 財務部	通年
	5) 奨学金制度の見直し	① 給付奨学金制度を見直す。	財務部 教学C 学生C	通年
	5. 新型コロナウ イルス感染対 策	1) 学生の学修継続支援 への対応	① 新型コロナウイルス感染拡大の影響に伴う、学生への生活・学修支援制度(支援金・奨学金等)を創設し、経済的支援を実施する。 ② 学内支援体制を整備する。	学長室 総務部 財務部 教学C 学生C 情報C
2) 授業方法の変更への 対応		① 学生の受講環境を支援する。 ② 教員の授業実施環境を整備する。	学生C 情報C	通年
3) 感染拡大防止		① 各種学事等の見直しによる学生・教職員の感染防止を図る。 ② 授業、職場の環境見直しと衛生管理を強化する。	学長室 総務部 財務部 教学C 学生C	通年

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部局	実施月
II. 研究活動の推進				
1. 研究活動推進・支援	1) 研究活動の推進・支援	① 研究業績のresearchmapへの移行を検討する。 科学研究費助成事業の応募に、業績入力が必要なresearchmapの活用と本学教員DBとの関連の検討をする。	ひろみらC	9月
2. 産学官連携リスクマネジメント	1) 産学官連携リスクマネジメント	① 知的財産権取扱規程を制定する。 ② 秘密情報管理の整理をする。 ③ 産学官連携リスクマネジメント人材を育成する。	ひろみらC	9月 3月 3月
III. 地域連携・地域貢献				
1. 地域連携・地域貢献の推進	1) 学生の地域活動に対する支援	① 地域つながるプロジェクトを見直す。 応募プロジェクト数の減少を食い止めるため、学生が利用しやすくなるような制度を検討する。	ひろみらC	12月
IV. 入試制度の整備と志願者の獲得				
1. 入試制度改革	1) 入試関係	① 入試制度改革を行う。 新たに始まる大学入学共通テストへの対応、総合型選抜、学校推薦型選抜の実施時期変更ともない、遺漏のないように計画・実施する。	入学C	通年
2. 入学定員厳格化対応	1) 入学定員管理の強化	① 厳格な入学定員管理を可能とする制度を検討し実施する。	入学C	通年
3. 志願者の獲得	1) 各学生募集企画の検証と改善	① オープンキャンパスのプログラム・スケジュール等の見直しを図る。	入学C	通年
	2) 情報発信力の強化	① 高校生、保護者に有益な情報を発信するため、入試情報サイト、LINE@、Web広告などの充実を努める。	入学C	通年
	3) 高大連携・接続の強化	① 広島修道大学ひろしま協創高校と引き続き高大連携、広域連携を実施する。2022年度入学予定者の推薦枠の学部・学科内訳を検討する。	入学C 総務部	通年
V. 大学組織・運営の強化				
1. 組織改革・改善	1) 学部・学科改組の検討	① 学部等の設置を検討し、教育課程と教学マネジメント、次期カリキュラム改正との整合を図る。	学長室 教学C	通年
	2) 各種委員会等の見直し	① 各種委員会の現状問題点を整理する。 ② 新たな委員会体制の検討と整備を行う。	学長室 各学部 各研究科	通年 通年
	3) 事務システム・業務の改善	① 業務データ及び情報システムの一元化検討と指針・計画を策定する。 ② 業務情報システムにおけるクラウドサービス利用についての検討及びガイドラインを作成する。	情報C 学長室 各部署	通年 通年
	4) 新教学システムの導入	① 2022年4月の新教学システムの稼働に向けて、仕様、データ移行等の導入計画を立案し、計画に従って実施する。	教学C	通年
	5) 円滑な対外接続(10GB化)	① ネットワークトラフィックの増大対応として、学内・学外の出入り口に設置している機器、ファイアウォール、ルータ等のハードウェアの増強及びネットワーク回線の10GB化を実行する。	情報C	8月末
	6) 学内LAN設備(光ケーブル)の更新	① 1997年に敷設した光ケーブルについて、現状を把握し更新方法・計画の検討を行う。	情報C	通年
	7) 事務処理方法の見直し・改善	① 出張申請・旅費計算の効率化を図る。 ② 旅費支給の運用方法の見直しを行う。	総務部	7月 5月
	8) 機関リポジトリ管理体制の整備	① 学術機関リポジトリデータベース(IRDB)の変更に伴う紀要のデータ入力方法整備に伴い、図書館内の管理体制等を整え、リポジトリの円滑な運用を目指す。	図書館	3月
	9) 新目録システムCAT2020への円滑な移行	① 2020年6月1日に正式運用が開始される新目録システムCAT2020について、情報収集を図って理解を深める。さらに図書システム(LIMEDIO)への反映を確認して、新目録システムへの円滑な移行を目指す。	図書館	3月
	10) 人事給与制度の見直し	① 同一労働同一賃金に係る各種手当の見直し及び専門業務型裁量労働制の導入を検討、実施する。	総務部	3月

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管 部局	実施月
2.設備・財政基盤の強化	1)寄附事業の充実	①周年事業を機とした新規寄附者を獲得する。 ②継続的な寄附を促すための方策を検討・実施する。	総務部	11月 11月
	2)新規財政計画・人事計画の策定	①新学部完成年度以降の人事案を策定する。	総務部	3月
	3)中期的財政計画の見直し	①職員人事制度改革に伴う人件費支出、定員管理の厳格化に伴う学納金や新たな資金運用の開始に伴う運用収入等の見直し(2024年度までの計画策定)を行う。 ②目標とする財務指標を策定する。 ③2017年度に策定した校舎建替計画の検証及び学内インフラ、校舎以外の施設等も含めた更新・改修計画を再検討する。	財務部	12月 9月 9月
	4)学内禁煙環境の整備	①今後の学内喫煙のあり方について、検討のうえ対応する。	学生C	通年
3.外部機関等との連携強化	1)同窓会・後援会との連携強化	①同窓会との定期ミーティングの定着を図る。 ②後援会総会、教育懇談会のプログラムの見直しを行い、参加者数の増加を図る。	総務部	通年 5,9,10月
VI.危機管理・広報の強化				
1.危機管理の強化	1)BCP策定に向けた取り組み	①広島修道大学事業継続計画(BCP)を検討・作成する。(システム復旧を含む) ②上記に付随する設備等の予算化をする。	財務部 情報C 学長室	3月 3月
	2)危機管理体制の強化	①各種危機管理対象の整理と事象別対応(体制・手順)を検討する。	学長室	通年
2.広報・広告の強化	1)広報広告の強化	①広報・広告戦略(方針並びに事業計画)を策定する。 ②WEBサイトをリニューアルする。 ③60周年事業、スポーツ活動支援等の発信を強化する。	学長室	4月 通年 通年
3.記念事業の実施	1)大学60周年事業の策定・実施	①スポーツロゴを展開する。 ②ユニフォームを製作する。 ③応援グッズ等を製作し展開する。 ④シンポジウム等の検討・実施をする。	学長室 学生C	通年 8月 通年 通年
	2)商学部60周年記念事業	①『修道商学』60周年記念号を発刊する。 ②記念講演会を開催する。	商学部	通年 通年
	3)国際政治学科30周年記念事業	①リーフレット(学内広報誌等による写真コラボ)を作成する。 ②記念論文集(修道法学43巻1号)を発刊する。 ③被ばく樹木を植樹する。 ④公開講座「グローバル時代、世界のいま」を実施する。 ⑤ネットを利用したマークなどを制作する。 ⑥同窓会大会・アルマガゼットにて広報を展開する。	国際コミュニ ティ学部	4月～10月 5月末 6月 4月～10月 9月～11月
VII.内部質保証				
1.内部質保証の整備と強化	1)全学的内部質保証体制の整備	①教学マネジメントを含めた全学的な内部質保証体制のあり方についての検討・整備をする。 ②内部質保証システム(全学・学部・研究科)の検討・指針を作成する。	学長室 各学部 各研究科	通年 通年
	2)自己点検・評価体制の整備	①自己点検・評価委員会(全学・学部・研究科)のあり方を検討する。 ②学外有識者等による点検・評価のあり方を検討する。 ③本学PDCAサイクルのあり方を検討する。 ④認証評価指摘事項(改善課題)に対応する。	学長室	通年 通年 通年 通年
	3)IRの推進	①学習動向、各種大学プログラムの分析・報告を行う。 ②IR事業を推進する。(大学基礎数値、教育成果指標等の整理・検討)	学長室 教学C他	通年 通年
	4)教員活動状況評価表の見直しと活用	①教員活動状況評価における評価項目を見直し、評価結果の活用について検討し、実施する。	総務部	3月

2020年度 中高部 事業計画

【教員の部】

主要項目	具体策	所管部署	実施月
I. 学力の向上	1. 大学進学実績の向上 ①大学入試改革を見据え、進学実績向上のために必要な学力を向上させるために、各教科の授業改善、教員間の連携等について関係部署と協議しながら推進する。 ②数値目標の達成に必要な各部署の課題を明確化し、定期的にその解決の状況を確認する。 ③東大20名以上合格を数値目標として、志望者の増加に向け、生徒に対する進学指導、模擬試験対策、進学情報提供を強化する。また、生徒に対する早期からの働きかけのあり方を検討する。	中高両教頭・教頭補佐 中高両教頭・教頭補佐 進路部・教務部	通年 通年 通年
	2. 学力観の見直し ①今年度から取り組みを始める「探究」を教科や学年と協力し、カリキュラム化に向けて取り組む。 ②2022年から実施される高校新課程のカリキュラム策定に向けて調査研究を行う。 ③新しい学びを推進するための研究を引き続き行い、生徒ひとり一台、一接続の運用に注力し、思考力、判断力、表現力など、生徒の非認知的能力を伸張させる取り組みを行う。 ④修道ベーシック・ルーブリックを教育活動の目標とし、教職員、生徒、保護者への周知徹底をはかる。また、新学習指導要領の観点別評価に反映させるための教科別ルーブリック作成を2021年度から開始できるように立案する。	教務部 教務部 中学教頭・教務部 中学教頭・教務部	通年 通年 通年 通年
	3. 学習意欲の向上 ①1・2年のセミナー合宿を実施する。 ②4年の東大見学ツアーを実施する。 ③5年の東大・京大セミナーを実施する。 ④中級からの成績優秀者を顕彰する。 ⑤6年のコース別クラス編成を、より実効性の	進路部・担当学年 進路部・担当学年 進路部・担当学年 進路部・担当学年 進路部・教務部・担当学年	8月 8月 8月 8月 通年

	あるものにするために、事前指導のあり方を検討する		
II. 国際理解教育の充実	<p>1. 関連行事の実施</p> <p>①フューチャー・リーダーズ・プログラムを実施する。</p> <p>②フューチャー・リーダーズ・プログラムの全校的な取り組みを構造化し、全校で取り組むための具体的なシステムを検討する。</p> <p>③修道ループリックに合わせ、フューチャー・リーダーズ・プログラムの内容を検討し、次年度から全校的な取り組みと結びついた内容に改変できるよう準備する。</p>	<p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p> <p>成部・高校教頭</p>	<p>11月</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
III. 倫理観の向上	<p>1. 規範意識や倫理観の育成</p> <p>①修道ベーシック・ループリックの「価値観」をもとに生徒が持つべき規範意識や倫理観を明確にする。</p> <p>②遅刻指導、ICT 機器の利用におけるリテラシー指導を通して「自己の信念を貫き通そうとする姿勢」の向上を養う。</p> <p>③交通安全に対する意識の向上、公共交通機関利用時や自転車乗車時のマナーの向上を通して「自分の言動を客観的に見ようとする姿勢」を養う。</p> <p>④体育祭などの学校行事や宿泊行事の時期および内容の変革を円滑にすすめられるよう準備を整える。</p>	<p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
	<p>2. 自治向上の精神の育成</p> <p>①修道ベーシック・ループリックをもとに、生徒の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して、「協働性」「向上心」を育み、何事も自分で切り開いていく「開拓者」精神を養う。</p>	<p>生徒部・高校教頭・教頭補佐</p>	<p>通年</p>
IV. 教育力の向上	<p>1. 人事考課の実施</p> <p>①校長面談において確認された各教員の単年度目標の機能的展開が可能となるように「個人事業計画書」を吟味し、その計画の実現に向けて、適宜現場での人事配置、業務改善を図る。</p>	<p>中高両教頭・教頭補佐</p>	<p>通年</p>

	②人事考課が公正に行われるよう、授業観察、教員へのヒアリング等を通して多角的なデータの収集を図る。	高校教頭	通年
	2. 教員研修の充実 ①業務・授業の効率化と、学びの深さや幅をひろげ、学力の定着を目指し、すでに導入したアプリや機器の基本的な機能を確実に使えるよう、部長・学年主任・教科主任+希望者を対象とし、年間20回のICTキャッチアップ研修を行う。 ②昨年度、一昨年度と就任5年目までの教員研修を中心に実施してきた学習者を主体とした授業デザインの研修をさらに充実させるため、就任5年目までの教員・教科主任・教科からさらに1人+希望者を対象とし、年間10回を目処に「改訂版タキノミーテーブル」をもとにした授業デザイン研修を行う。 ③昨年度「Progress meeting」と称して有志で実施した協働型・双方向型の授業や生徒の学習意欲を喚起する授業についての研究を継続的に発展させる。 ④革新的且つ生徒の学習意欲を喚起する授業を校内ネットワークに動画配信し、教員の授業研修に利用する。また、課題のある授業に関しては、動画によりその課題を探求し、校長が直接当該教員と課題解決のための協議を行う。 ⑤昨年度まで数名の担当者が発表していた研究授業発表会の規模を拡大し、全学年2コマの研究授業発表と分科会を行い、修道ベーシック・ループリックを含めた「修道の学び」を網羅的に示す発表とする。	中高両教頭・教務部 中学教頭 高校教頭・教頭補佐 中高両教頭・教頭補佐 中高両教頭・教頭補佐	通年 通年 通年 通年 通年
V. 生徒募集の充実	1. 広報活動の工夫 ①スローガンではなく、教育活動の結果を示すスタイルで外部広報活動の充実をはかる。 ②修道の真価が伝わっていない地域を重点地区とし、外部広報活動を展開する。 ③修道ベーシック・ループリックの生徒による自己評価を集計し、その結果から導き出される修道生としてのスキルや価値観の高さを	中学教頭・広報室 中学教頭・広報室 中学教頭・広報室	通年 通年 通年

	外部広報活動、内部広報活動に活かす。 ④本校の教育に対する保護者の理解とロイヤリティーを高めるために、1年から4年までの保護者を対象として学年別校長講演会を実施する。	担当学年	通年
VI. 修学支援	1. 修学支援 新型コロナウイルスにより家計状況が急変した家庭の修学を支援するため、修道中学校修道高等学校奨学生の特別募集を実施する。	教頭補佐	5～7月

【職員の部】

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I. 教員事務作業の点検と改革	教員の事務作業負担の軽減を目指し、事務室が受け持つことができる業務を洗い出し、検討を加える。	事務長 総務課	通年
II. 新本館建築に向けての計画検討	創立 300 年記念行事の一環としての本館新築計画を具体的に進める。	財務課	通年
III. ICTを利用した授業改善の検討	ICTを利用した授業改善、また学級運営や生徒指導における「統一的な ICT システムの利用」の実現にむけて、施設整備・運用の面で教員サポート体制を強化する。	総務課	通年
IV. 寄付金制度の運用	構築された寄付金制度を有効に運用し寄付金の増収を図る。	事務室	通年
V. 創始 300 年に向けて、記念事業の計画検討	引き続き、貴重書籍・収蔵品のデジタル化を進めるとともに、法人と連携を取りつつ、学園史の編纂と記念事業のあり方を検討する。	事務室	通年

2020年度 学校法人修道学園 事業計画
 (広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校)

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I 学校組織力の強化			
1. 運営・組織体制の充実	①建学の精神と教育目標に基づく「3つのビジョン(教育・学校経営・教職員)」を推進し、達成に努める。 ②建学の精神と教育目標に基づいた教職員の行動指針「協創スタンダード」を継続的に遂行するよう努める。 ③校務運営委員会機能の充実を図り、学校組織の活性化に資するようにする。 ④事業計画に基づいた学校経営計画の作成と校務運営の円滑化とその評価。 ⑤各部、中学校、学年、コース、教科の昨年度の課題を踏まえた経営計画の作成とその評価結果の分析及び改善策の策定。 ⑥自己申告書(全教職員)の提出と管理職によるヒアリングの実施によって、学校運営等の共有化を図る。	管理職、校務運営委員 管理職、校務運営委員 管理職、校務運営委員 管理職 各部長、各主任 管理職	年間 年間 年間 年間 4月・10月 5月・10月
2. 教職員研修の実施と充実	①マネジメント研修(主任・部長別、年齢層別)を実施し、学校経営を展望する。	管理職	6月
II 教育力の強化			
1. 教員の資質と指導力の向上	①自己申告による目標達成に向けて、自己研鑽の状況を適宜面談にて確認する。 ②毎月2～3回実施される「報連相」(連絡会)におけるミニ研修(研修報告等)を充実させる。 ③所属教科及び所属教科外の授業参観による自己研修を実施する。 ④国語・社会・数学・理科・英語の教科指導の工夫・改善のため、広島修道大学との連携による定期的な研修会を継続する。 ⑤指導力向上のための校内研修会の実施と校外研修会への計画的な参加の推進。 ⑥11月に実施される公開授業研究会に向けて計画・準備を整え、滞りなく開催できるように関係部署で連携を図る。	管理職 管理職 管理職、教務部 管理職、教務部 管理職、教務部 管理職、教務部 他	年間 年間 年間(定期) 年間 年間(定期) 11月
III 学力の向上			
1. 進路目標実現に向けた方策	①進路指導計画(進路シラバス)の作成と進捗状況の確認をする。 ②進路数値目標の設定及び達成に必要な課題等を各教科・部署で確実に共有する。 ③クラッシーを活用したポートフォリオの作成やスタディサプリによる学びなどを拡充する。	進路指導部 進路指導部、教務部 教務部、進路指導部	年間 4月、8月、12月 年間

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 学力伸長に向けた方策	①生徒が朝読書を万全に取り組めるよう、活動の点検と指導を徹底する。	協創教育部、 国語科、LRC	年間
	②探究的な学び（エミット学習）、ICT教育（iPad導入）などの学びを推進し、新たな教育（学習）法なども模索する。	協創教育部、 教務部	年間
	③教科ごとに明確な経営計画を作成し、生徒の学力伸長に向けて効果的な学習指導を推進する。	教務部 各教科主任	年間
	④中学校及び高校各コースに応じた学習指導と進学指導を適切に強化する。	教務部、進路 指導部、各主任	年間
IV協創教育の推進			
1. 次世代教育の推進	①探究型学習や次世代教育（ICTを含む）の推進と共に今後の方向性を研究する。	協創教育部	年間
	②探究科で展開する新たな学び（ICT活用、課題研究等）のシラバス作成と学習活動の実施。	協創教育部	年間
	③高校国内研修旅行の企画・立案及び事前事後学習指導の実施。	協創教育部	年間
2. 国際理解教育の推進	①広島修道大学との連携による各種国際交流活動の企画と推進。	協創教育部	年間
	②海外提携校との交流活動の企画と運営。	協創教育部	年間
	③海外研修制度（語学研修、ホームステイ、現地交流等）の案内と参加の推進。	協創教育部	年間
	④高校海外研修旅行の企画・立案及び事前事後学習指導の実施。	協創教育部、 外国語科	年間
3. 社会参画教育の推進	①探究科「課題研究」の1テーマとして地域参画を設定し、その研究に対する指導・助言を行う。	協創教育部	年間
	②地域清掃などの地域貢献活動への参加（広島修道大学との連携を含む）を促す。	協創教育部	年間
V自立（律）心の育成			
1. 規範意識を育むための生徒指導の実践	①男女共学化に伴い、日常の指導や対策は勿論のこと、全校集会、学年集会等を通じて従前以上に生徒の意識向上を図る。	生徒指導部	年間
	②建学の精神と教育目標に基づいた生徒の行動指針を「協創スタンダード」にまとめ、校外外に示す。	管理職 生徒指導部 (生徒自治会)	年間
	③安全教育（交通安全、薬物、校内安全等）及び性教育等の各種講演会を通じて生徒の意識や徳性の向上を図る。	生徒指導部	各年1回
	④携帯電話・スマホの校内持ち込み許可に伴い、その正しい使用法やSNSの正しい利用法についての指導を徹底する。	生徒指導部	年間

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 学校生活の活性化	①部活動の加入率を高めるための対策を講じると共に、文武両道の方向性を示し、有意義な学校生活のあり方を推進する。	生徒指導部	年間
	②生徒自治会の活性化のため、役員の行事（体育祭、文化祭、クラスマッチ等）企画能力、運営・実践能力の向上を図る。	生徒指導部	年間
	③生徒が主体的に行事に参加する機運を高めるための方策を継続的に検討する。	生徒指導部	年間
3. 教育相談活動等の充実	①S C（スクールカウンセラー）の活用とS Cと連携した担任の生徒面談の実施。	生徒指導部	年間
	②S Cと各学年との連携のための連絡会（ケース会議）の設置と実施。	生徒指導部、 学年主任	各学期
VI情報発信力と募集力の強化			
1. 年間を通じた計画的な情報の発信	①ホームページ及びその更新が情報発信の最たる手段との認識のもと、継続的な発信と更新を強化していく。合わせて、「協創通信」の定期的な発行を継続する。	管理職、企画 広報部、庶務部	年間
	②P T A、同窓会への本校の情報発信と連携の強化を図る。	庶務部、総務課	年間
2. 保護者及び生徒との信頼関係の構築	①保護者及び生徒へのアンケートを実施し、その結果による改善策等の提示を確実に行う。	教務部、庶務部	7月、12月
3. 募集・広報活動の継続的な展開	①校名改称、男女共学化2年目。これまでの募集活動成果を決して絶やさないよう、継続的な広報活動を展開する。	管理職 企画広報部	年間
	②広報活動に加え、「協創フォーラム」を実施し、ブランド力の充実に資するようにする。	管理職、企画 広報部、協創 教育部	年3回
VII施設設備の充実と環境整備の改善			
1. 中学校棟の建設	①2021年度末完成に向けて万全な準備態勢を整える。	財務課	年間
2. Wi-Fi 環境の整備	①中学1,2年、高校1,2年のタブレット使用に伴い、快適な接続環境を整備する。	財務課、ICT委員会	年間
3. 事務システムの改善	①給与システムと財務システムの運用のマニュアル化を行い、幅広い活用を行う。	総務課、財務課	年間
VIIIその他			
1. 学校創立80周年行事の準備	①2021年度に学校創立80周年を迎えるにあたり、記念行事の立案・準備をする。	管理職、庶務部	年間

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 新型コロナウイルス感染症による中長期的な休業を想定した財政的支援	<p>①ICT を活用した授業の推進と生徒の自学自習習慣の定着を図るための財政的支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ wi-fi 環境のない家庭に対する光回線敷設のための財政的支援 ・ 全生徒を対象としたオンライン講座の受講（スタディサプリ） 	管理職、財務課	年間